

2014年10月31日

SAAJ NEWS RELEASE

「修正国際基準（国際会計基準と企業会計基準委員会による 修正会計基準によって構成される会計基準）（案）」について意見書を提出

公益社団法人 日本証券アナリスト協会（会長：大場 昭義 東京海上アセットマネジメント株式会社 代表取締役社長）は、2014年7月31日に企業会計基準委員会（以下 ASBJ）が公表した「修正国際基準（国際会計基準と企業会計基準委員会による修正会計基準によって構成される会計基準、以下 JMIS）（案）」（以下『公開草案』）について意見書を作成し、10月31日に ASBJ へ提出しました。

【意見書のポイント】

- ✓ 我々のアンケートでは、「JMIS を新たな会計基準として制度化する必要があると思いますか。」という質問に対して、回答者の比率は「思う」が 43%、「思わない」が 43%と真っ二つに割れ、どちらも過半数に達しなかった。
- ✓ 「思う」回答者は、JMIS によって我が国のエンドースメント手続が制度化される点に意義があると考えている。また、我が国の意見を JMIS という具体的な代案の形で示すことにより、国際会計基準審議会（IASB）における国際財務報告基準（以下 IFRS）の開発に影響力を行使できる点も理由に挙げている。
- ✓ 一方、「思わない」回答者は、日本基準、米国会計基準、指定国際会計基準である IFRS に、4つ目の JMIS が加われば、財務諸表の比較可能性が一段と低下する点を懸念している。また、我が国の資本市場が海外からの信頼を損なう危険性や、IFRS 導入に後ろ向きと捉えられる危険性が高まる点、実際に適用する企業が少なく見られる点などもあり、財務諸表利用者には JMIS を導入するメリットがないか小さいと考えている。
- ✓ この様な現状を踏まえ、我々は、財務諸表の核である純資産と純利益について、JMIS と IFRS の差異による影響額が一目瞭然で解る様な調整表を注記で開示することを提案する。最終的に何がどれだけ異なるのかを内外の財務諸表利用者に明示すれば、我が国の目指すべき IFRS の姿を国際的に発信し、JMIS への理解を促す効果が期待でき、JMIS の存在意義も高まるからである。さらに、調整表は財務諸表利用者にとって、JMIS と他の基準による財務諸表の比較可能性を大きく向上させるであろう。

【添付資料】「修正国際基準（国際会計基準と企業会計基準委員会による
修正会計基準によって構成される会計基準）（案）」について

本件に関するお問い合わせは下記まで

日本証券アナリスト協会

電話：03-3666-1577

担当：理事・教育第一企画部長 かいます 貝増 眞